

ふくい政策デザイン navi

「行政マンが抱える悩みをデザイン思考で解決に導く」。

そんな「政策デザイン」という手法が、庁内のさまざまな部署で成果を上げています。

「ふくい政策デザインnavi」ではその活用事例や最新のトピックス、
導入の効果や活動の広がりなどをお伝えしていきます。



#03 **2022** | 12 01 02 03

政策デザイン 今年度の実績と成果

デザイン思考による県民目線での政策立案を目指す政策デザイン。今年度、政策デザインの仕組みを活用し、県職員と県内クリエイターと一緒に政策を考えていく検討会を計30回実施しました。重要度の高いテーマについて知事や部長等と意見交換を行う「政策デザインミーティング」、物事の本質を見極め、自由な発想で解決のアイデアを考える「政策検討ワークショップ」、企業等に出向き潜在的ターゲットへのヒアリングなどを

通して真の課題や解決すべきことは何かを考える「現場課題リサーチ」。目的や課題に応じた検討会を通して活発な意見が交わされ、様々な視点からのアイデア創出につながりました。

また、アウトプットまでは至っていませんが、今後の県政運営の中でも比較的長期のプロジェクトにおいて、ワークショップ等でターゲットの再設定やコンセプトの構築などを議論し、来年度の予算編成に活かしている事例も出ています。



来年度の予算編成に向けて 検討中！

テーマ：一乗谷朝倉氏遺跡のフィールドミュージアム化
担当：文化課、一乗谷朝倉氏遺跡博物館



一乗谷朝倉氏遺跡博物館の開館を契機に、遺跡全体を一つのエリアととらえた「フィールドミュージアム化」構想に向け、「政策デザインミーティング」を通して、クリエイターと杉本知事が意見交換を行いました。遺跡の空間デザイン（案内サインの統一の整備）や遺跡での仕掛けづくり、博物館の全国PRなどについて、検討中です。

テーマ：県庁屋上の利活用
担当：財産活用課

今年度のチャレンジ政策提案をきっかけに検討が始まった「福井県庁屋上の一般開放」。ドラムサークルの開催など民間の動きとも連携した屋上活用事業が試行されていますが、建築専門のクリエイターにもアドバイスをいただき、利活用の可能性について検討を進めています。



県庁屋上で打楽器響け

23日、活用事業第1弾



福井新聞25面
[R4.10.13掲載]

アウトプット事例

政策デザインから生まれた事例をご紹介します。

CASE
01

テーマ：県職員採用 PR
対象：主に20代の若者
担当：人事課

ターゲットに応じた 県職員採用 PR 戦略

県職員採用PR動画を新たに制作しました。県庁志願者数の増加に向けたPR戦略について相談する中、「現時点で公務員に関心が薄い学生」と「公務員に関心がある学生」に対し、それぞれターゲット別にアプローチするという方向性が固まりました。県庁志願者のすそ野拡大を狙った「就活特効薬篇」(3本)と、一歩踏み込んで県庁のことを知りたい学生向けの「コムイン!篇」(1本)を制作し、人事委員会のホームページに掲載しています。この動画は、大学での就職説明会や県庁ナビゲーターが学生との面談を行う際等に活用していきます。いずれもエッジの効いた内容に仕上がっています。ぜひご覧ください。



「就活特効薬」篇



「コムイン!」篇

「動画で紹介! 福井県職員の仕事」HP→

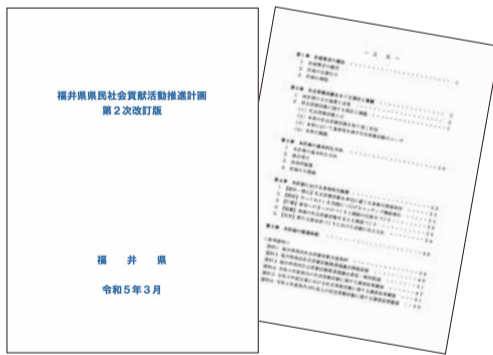


CASE
02

テーマ：県民社会貢献活動推進計画
対象：県民
担当：県民活躍課

各種計画・プランにも 政策デザインを

“政策デザインを上流部分から”の一環として、今年度から各種計画・プランの策定(改訂)にもクリエイターが参画しています。県民社会貢献活動推進計画の改訂(県民活躍課)では、県民の社会貢献活動への参加のステップを分解し、ステップアップしながら循環していくモデルを体系化。ステップに応じたアプローチのアイデアをクリエイターと議論しました。



CASE
03

テーマ：カンパニー・チャレンジ応援ディレクター
対象：県内に本社または事業所を置く企業、団体、
教育・研究機関、特定非営利活動法人
担当：県民活躍課

チャレンジ応援 ディレクターの 発展企画も コラボ



寺井チャレンジ応援ディレクター肝いりの企画、「カンパニー・チャレンジ応援ディレクター(C・COD)」)。登録企業・団体の募集に向け、C・CODにはどんな役割が期待されているのか、C・CODになることのメリットをアイデア出し、整理しました。ワークショップを通してアイデアが膨らみ、企業目線に立ったアプローチを検討。募集チラシに反映しました。



←「C・COD 登録企業募集中!」HP

政策デザイン先進県として、 県内外と連携

国や大学と情報交換

経産省（業務改革課）の職員、多摩美術大学の丸橋特任准教授、関係者ご一行が来県され、意見交換を行いました。経産省では政策×デザインを目指す「JAPAN+Dプロジェクト」などが進められており、本県の政策デザインにも注目していただいています。



また、武蔵野美術大学クリエイティブイノベーション学科の岩寄教授が来県。武蔵野美術大学は日本を良くするための政策の提言、政策デザインの研究を担う「政策デザインラボ」を設置しており、本県政策デザインの内容をインタビューいただきました。今後、私たちは教育（研究）機関との連携も進めていきます。



ナッジ・ユニットと連携



今年度のチャレンジ政策提案をベースに県職員有志によるナッジ・ユニット「fuBit」（フウビット）が誕生しました。「行動経済学」をベースに心のクセを利用して、人を望ましい方向へ後押しする手法が「ナッジ」です。人に着目する手法として政策現場でも導入が進んでいます。ナッジ活用を進め、「県民主役の県政」の実現、ならびに県職員一人ひとりが人間中心の施策を検討・実践できる体制づくりに取り組む「fuBit」。今後は「fuBit」との連携による展開も予定しています。



政策デザインへの 理解・活用促進へ

職員に向けた 政策デザイン普及啓発 動画が完成

全庁をあげての政策デザイン推進に向け、職員（特に管理職）向けの普及啓発動画を制作しました。入門篇（約2分）では政策デザインの定義・概念を簡潔に紹介、実績篇（約12分）では障がい者の幸せ就労を目指す「フクション!」の事例をクリエイターが分かりやすく解説しています。

今後も政策デザインの仕組みや考え方への理解を深める活動を行っていきます。ぜひ、ご活用ください。



ふくい政策デザインnavi
発行元：福井県地域戦略部未来戦略課
0776（20）0759
発行月：2023年3月